

1. 授業のねらい・概要

現在、急速にグローバル化を進める日本の企業活動に焦点を当て、ミクロ・マクロ双方の視点から様々な経営学的分析を試みる。単なる理論面の紹介にとどまらず、現実の企業が取り組んでいる国際的な経営活動について、学生諸君とともに研究する。

2. 授業の進め方

基本的には、参考文献等に基づき講義形式で行うが、一方通行の授業ではなく随所でケース・スタディを提示し、相互ディスカッションを含め、共に考える時間をとるようにする。

3. 授業計画

<p>1. イントロダクション： この科目の講義内容、進め方や評価方法</p> <p>2. 多国籍企業とは、グローバル企業とは(1)： 多国籍企業の定義、グローバル企業の定義</p> <p>3. 多国籍企業とは、グローバル企業とは(2)： 日本の企業活動の特徴、構造的な問題</p> <p>4. マクロ経済的な視点からの分析(1)： 日本の貿易収支、国際収支の特徴</p> <p>5. マクロ経済的な視点からの分析(2)： 日本の海外直接投資の特徴、ODA および国際協力</p> <p>6. ミクロ経済的な視点からの分析： グローバルに事業展開する企業の組織、経営戦略</p> <p>7. 著名な多国籍企業、グローバル企業： 株式時価総額ランキング等に基づく統計的な分析</p>	<p>8. 日本企業のグローバル化(1)： 鉄鋼メーカーの海外事業展開例</p> <p>9. 日本企業のグローバル化(2)： 総合商社の海外事業展開例</p> <p>10. 日本企業のグローバル化(3)： 生命保険会社の海外事業展開例</p> <p>11. 日本企業のグローバル化(4)： ホテル運営会社の海外事業展開例</p> <p>12. 日本企業のグローバル化(5)： テーマパークの海外事業展開例</p> <p>13. 国際経営論への理論的接近(1)： 国際経営に関する代表的な理論</p> <p>14. 国際経営論への理論的接近(2)： 国際経営に関する投資選択問題</p> <p>15. 全体のまとめ： これまでに学んだことの整理、今後の課題の提示</p>
--	--

4. 到達目標

国際経営論の基礎が、論理的かつ体系的に身につくことを目標とする。また、現実の企業の経営戦略や株価の動きなど、ホットな話題にも適宜触れるので、関心のある業界や企業について、より深く研究しようという意欲が高まることを期待する。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

随所でケース・スタディを提示するので、予習として、問題点の整理や解決方法の模索を行ってほしい。また、授業後は、参考文献・ノート等に基づき復習して、自分なりに講義内容を体系立てて身につけておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

100点満点の評価を、次の3つの要素に分ける。①授業に対する受講姿勢(20点)、②随所で提示されるケース・スタディについて課されるレポートの内容(20点)、③期末試験の成績(60点)。

7. テキスト・参考文献

参考文献として、講義担当者もかつて執筆に携わった『2017年版通商白書』経済産業省をあげておく。また、授業の都度、適宜関連資料を配布する。

8. 受講上の留意事項

履修状況を見て、上記授業計画の一部を変更することもありうる。また、理解度を見て、適切な参考文献を随時紹介する。